

## 韓国

### マクロ経済動向と展望

韓国銀行（中央銀行）が10月26日に公表した、2012年第3四半期の実質GDPの成長率（速報値）は、季節調整値で前期比0.2%（年率換算0.8%）で前期の同0.3%からさらに低下し、景気の低迷を示した。需要項目別に見ると内需では最終消費支出は同0.7%で、前期の同0.2%から上昇した。固定資本形成は前期の▲1.5%で前期に続いてマイナスとなった。その内訳では、設備投資が▲4.3%で前期に続いてマイナスとなった。

鉱工業生産指数の第3四半期の伸び率は、季節調整値で前期比▲2.0%で、前期に続いてマイナスとなった。月次では、7月は前期比▲1.8%で、8月は同▲0.9%とマイナスが続き、9月に同0.8%とプラスに転じている。

失業率（季節調整値）は、7月は3.1%、8月は3.0%、9月は2.9%と推移している。

貿易収支（IMF方式）は、7月は53.4億ドル、8月は25.1億ドル、9月は56.4億ドルのそれぞれ黒字となった。

対ドル為替レートは、7月は1ドル＝1,142ウォンで、8月は同1,132ウォン、9月は同1,124ウォンと、第2四半期に比してややウォン高で推移している。

消費者物価上昇率は7月の前年同月比1.5%から、8月は同1.2%、7月は同2.0%と第2四半期に比して低めに推移している。生産者物価上昇率は7月の前年同月比▲0.1%とマイナスを記録した後、8月は同0.3%と、9月は同1.0%とやはり低めに推移している。

韓国銀行が10月11日に発表した経済見通しによると、2012年の実質成長率は2.4%で、7月に発表した前回予測（以下前回予測）の3.0%から下方修正された。また2013年の成長率は3.2%で、やはり前回予測の3.8%から下方修正されている。

2012年の成長率を需要項目別に見ると、民間消費が1.7%で、前回予測の2.2%から下方修正されている。また建設投資は0.2%で前回予測の1.6%から大きく下方修正された。

設備投資は前回予測では前年実績の3.7%から5.8%に拡大するとしていたが、今回は1.5%と大幅に下方修正された。一方、外需では輸出が前回予測の4.4%から3.4%に低下するとしている。但し、輸入の増加率はそれ以上に低下するため、経常収支の黒字は維持されるとしている。

また、消費者物価上昇率は前回予測の2.7%から、さらに低い2.3%に低下すると予測している。失業率は前回予測と変わらず、2011年の3.4%から、3.3%に低下すると予測している。

前回予測も4月時点の前々回予測から大きな下方修正であったが、どちらかと言えばその主な要因は外需の伸びの低下であった。一方で今回は、消費、設備投資、建設投資といった内需の伸びが大きく下方修正されており、韓国経済の景気後退の深刻さが浮き彫りになっている。4月、7月、10月と3カ月毎の短い期間に予測の下方修正が繰り返されたことは、韓国経済の急速な景気後退を物語っているといえよう。

### 大統領選挙の動向

12月19日に投票が行われる大統領選は、これまでの世論調査によれば支持率では、保守派の与党セヌリ党の朴槿恵候補が、革新系無所属で元ITベンチャー企業経営者の安哲秀候補、革新派の野党民主統合党の文在寅候補をリードする形で推移してきた。

こうした中、11月6日、安、文両候補は、革新系候補の一本化に向けた会談を行い、二人のどちらかを候補とすることで合意した。11月5日時点の世論調査では、2位の安、3位の文、両氏の支持率を単純合計すれば、朴氏を上回る。一本化が実現すれば形勢が逆転される可能性が出てきている。しかし、予備選挙など、一本化の具体的方法については今後の協議で詰めることとされており、調整が難航する可能性も大きい。韓国の大統領選ではこれまでも、陣営間の合従連衡が選挙直前に破綻することも起きており、選挙本番までは動向を注視する必要がある。

（ERINA調査研究部主任研究員 中島朋義）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	11年10-12月	12年1-3月	4-6月	7-9月	12年7月	8月	9月
実質国内総生産 (%)	5.1	2.3	0.3	6.3	3.6	0.3	0.9	0.3	0.2	-	-	-
最終消費支出 (%)	5.1	2.0	1.2	4.1	2.2	▲0.5	1.5	0.2	0.7	-	-	-
固定資本形成 (%)	4.2	▲1.9	▲1.0	5.8	▲1.1	▲1.5	3.2	▲2.9	▲1.5	-	-	-
鉱工業生産指数 (%)	6.9	3.4	▲0.1	19.5	9.5	▲0.1	2.2	▲0.1	▲2.0	▲1.8	▲0.9	0.8
失業率 (%)	3.2	3.2	3.6	3.7	3.4	3.1	3.4	3.3	3.0	3.1	3.0	2.9
貿易収支 (百万USD)	37,129	5,170	37,866	40,083	30,950	10,249	2,612	8,521	13,498	5,341	2,514	5,643
輸出 (百万USD)	371,489	422,007	363,534	466,384	555,214	140,370	134,877	140,213	133,309	44,675	43,063	45,572
輸入 (百万USD)	356,846	435,275	323,085	425,212	524,413	131,209	133,540	130,677	125,374	41,942	40,925	42,507
為替レート (ウォン/USD)	929	1,103	1,276	1,156	1,108	1,144	1,131	1,152	1,133	1,142	1,132	1,124
生産者物価 (%)	1.4	8.6	▲0.2	3.8	6.1	5.0	3.2	1.7	0.4	▲0.1	0.3	1.0
消費者物価 (%)	2.2	4.2	2.6	2.9	4.0	4.0	3.0	2.4	1.6	1.5	1.2	2.0
株価指数 (1980.1.4 : 100)	1,897	1,124	1,683	2,051	1,826	1,826	2,014	1,854	1,996	1,882	1,905	1,996

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2005年基準、消費者物価は2010年基準

貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース

(出所) 韓国銀行、統計庁他